

# LUCKY

2004.2

第34期 事業報告書

## 株主メモ

決算期日	2月末日
定時株主総会	毎年5月
基準日	2月末日 そのほか臨時に必要な場合には、 あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日	利益配当金2月末日 中間配当を行う場合は8月31日
1単元の株式の数	1,000株
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 〒135-8722
(郵便物送付先)	東京都江東区佐賀一丁目17番7号
(電話お問い合わせ先)	電話(03)3642-4004 (大代表)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
決算公告のホームページ のご案内	当会社の決算公告は、貸借対照表及び損益計 算書を当会社のホームページ( <a href="http://www.hokuyu-lucky.co.jp/">http://www. hokuyu-lucky.co.jp/</a> )に掲載しております。
株主優待制度	株主優待制度として、毎年2月末日現在の 1,000株以上を保有する株主に対し、年1回 5,000円相当の「北海道特産品」を贈呈い たします。

# LUCKY

2004.2

第34期 事業報告書

平成15年3月1日から平成16年2月29日



北雄ラッキー株式会社

JASDAQ: 2747

# 株主の皆さまへ

## はじめに

株主の皆さまには、平素より格別のご厚情を賜わり、厚く御礼申し上げます。当社への理解をより深めていただくために、皆さまよりいただきましたご質問についてお答えいたします。北雄ラッキーの現状や今後の事業展開などについて、ご理解を深めていただく一助となりましたら幸いです。

北雄ラッキー株式会社  
代表取締役社長

桐生 泰夫



…今後の売上高目標や出店計画についてお聞かせください。

私どもは「ラッキー」の使命を「北海道の皆さまの食卓をより豊かに、より美味しいものにする」と考えております。そこで、まずは品揃えを充実させ、地域のお客さまからのご要望にお応えしていきたい。それは本質的な営業力なくして実現できません。一朝一夕には難しいのですが、そうのんびりもしてられない。ここ数年が正念場と思います。具体的には「ラッキーらしさ」というオリジナリティを品揃えにいかにか反映させるかであり、この課題にいま懸命に取り組んでおります。

こうした前提のもと、店舗数の拡大は新店舗を年に1~2店、改装店舗も年に1~2店のペースで、つ

まりここ数年はキャッシュフローの範囲内で展開し、着実に営業力をつけ、同時に、有利子負債の軽減も図る。それが当面の方針でありまして、結果としてここ数年は2~3%の成長を維持したいと考えております。

…生産性の向上を次の課題としていますが、具体的にはどのように考えていますか。

ローコストオペレーションの実現については、仕事の手順やこれまでの慣習などの諸問題、お客さまへのサービスのあり方、あるいはディストリビューションの見直し等、たくさんの課題が重なり合う中、同時進行的に解決しなければならない難しさがあります。

流通業界の生産性の向上は、ご存じのように非常

に難しい状況にあり、この問題についての特効薬はありません。

当社では正面からこのテーマに向き合い、生産性向上に向けて専門部署を新設、それに連動した全社プロジェクトを立ち上げております。すぐに成果が上がるという簡単な課題ではありませんが、流通にとって不可欠なこのテーマを着実に、しかも目に見える形で変革していくことが大切だと思っております。

…商品や売場の展開について、方針と具体的な取り組みについてお話しください。

スーパーマーケットですから生鮮食料品が中心ですが、日常生活に欠かせない衣料品を組み合わせたコンビネーションタイプのSSMが当社のプロトタイプです。食料品の品揃えコンセプトは「フード&ミール」。ひと昔前はフード、つまり基礎食料品中心がSMの主流でしたが、味覚に優れ、時間の節約意識の高い現在のお客さまには調理せずですぐ食べられるミール商品群の充実は欠かせないニーズとなっ

ています。そして、衣料品のコンセプトは「快適普段着」。

こうした品揃えを、快適で常に新たな発見があるような売場空間でお迎えしよう、という考え方で店づくりに取り組んでおります。



カテゴリー売場の展開  
「できたてパイキング」(上)と  
「ミートスタジオ」(左)

…食の安全や衛生管理について、こういった取り組みをしていますか。

いまほど「食のモラル」に対するお客さまの目が厳しい時代はかつてなかったのではないかと思います。当社では安全衛生管理室を設置し、新商品の導入から当社基準による安全性の検査体制を整えております。さらに当室は、各店舗巡回による売場やバックヤードの衛生検査の実施も徹底して行い、いわば臨戦体制で問題点の摘発、および解消に力を注いでおります。

今後はさらにお客さまに対するまぎらわしい商品表示の禁止、あるいはリサイクルやエコ活動等に対してもエネルギーを注いでいこうと考えております。

株主の皆さまにおかれましては、何卒変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和46年4月、食品の小売および卸を目的として株式会社オレンジチェーンを設立。昭和49年5月、商号を株式会社山の手ストアと改めチェーン展開を開始し、更なる店舗規模の拡大と集客部門の充実強化を図るため、昭和57年5月に札幌市内を中心に衣料品のチェーン展開を行っていた株式会社まるせんと合併。商号も現在の北雄ラッキー株式会社に変更しました。

その後、一層のチェーン展開を図り、石狩町（現石狩市）、小樽市、道東の美幌町・遠軽町、道央圏の千歳市、栗山町、長沼町、さらに網走市と営業エリアを広げ、営業店舗数は、現在（平成16年2月末）34店を数えます。今後も、企業理念である「北雄ラッキーは、日本一質の高いスーパーマーケットをめざします。」を掲げ、お客さまに感動を与えるサービスとともにニーズの変化を敏感に捉え、一歩先を行くスーパーマーケットの創造に努力を続けていきます。

## ■店舗網

（平成16年2月末現在）

営業店舗合計 34店

食料品・衣料品共同店 21店

食料品単独店 5店

衣料品単独店 8店

栗山店

長沼店

千歳錦町店

朝里店

シティもんべつ店

（平成16年6月開店）

シティえんがる店

シティびほろ店

シティあばしり店

札幌内店



発寒店 青果売場



## 顧客サービスの向上。

### ●ハウスカードの発行

平成15年6月より日本信販(株)と提携しクレジット機能付きのハウスカードを発行し、全店舗での使用が可能となりました。新カードの特徴は、これまでの「ラッキーカード」(ポイント付与)と併用して使用する



「ラッキーNICOSカード」  
初年度の年会費は無料。

るとポイントが倍増される点です。

またNICOSやVISAの加盟店でも利用することができ、更にNICOS加盟店で本カードを利用した場合も「ラッキーポイント」が付与され、ポイントを共有できる大変お得なカードとなりました。毎月第3日曜日に「ラッキーNICOSカード」を利用すると、全品5%割引になるなど特典がいっぱい…。平成16年4月現在、会員数は1万人を超えました。

## 商品コンセプトの深耕。

### ●ラッキーの品揃えにはわけがある

当社はお客さまのご要望である「美味しく、安く、安全で、便利で新しい」に着目し、商品政策として4つの柱を掲げています。



トマトバザールは、当社の自慢できるカテゴリーです。

「グッドテイスト」  
…品質と味覚にこだわった商品開発

「グッドプライス」  
…基本食材を低価格でご提供  
「かんたん料理応援団」  
…すぐに食べられ手間いらずで時間を節約

「健康家族」  
…健康の維持向上、安全な食生活をサポート

こうした政策をバランス良くトータルに提案することでお客さまの生活向上のお役に立ちたいと考えています。

## 事業 ハイライト

## 低価格を強力訴求。



EDLPコーナー。  
「豊富な品揃え」、「付加価値商品の提供」を堅持しつつ、お客様へ「安さ」をアピールする新たな売場づくりとして全店に波及させました。

### ●EDLPの展開

「いつでもお買得!」を合言葉に、日常生活のベーシックアイテムをいつでも低価格でご提供しよう、という意味のエブリデーラッキープライス。

店頭ではその頭文字をつないだEDLP商品として強く打ち出す陳列を新店である発寒店からはじめました。お客様からは大変好評で、今では全店でこのEDLPを展開しております。当社の、美味しさやクオリティ訴求のカテゴリーと並行して、この低価格路線も、バランス良く、今後とも堅調に発展させていきたいと思っております。

## 安全衛生管理室を設置。



細菌検査中のスタッフ  
大腸菌、腸炎ビブリオ菌、ブドウ球菌などの判定を行い、年間約2,000検体の細菌検査を実施しています。

### ●各種の検査・調査を強化

当社は既に平成12年3月より安全性検査のため、商品検査室を設置していましたが、平成14年3月に安全衛生管理室として格上げし、商品の細菌検査・拭取検査はもちろん調理器具設備等の細菌検査や従業員に対する衛生指導の充実を図っております。

また、商品表示マニュアルを全面的に見直して、時代の要請である正しい商品表示の励行に努めており、安全衛生面でのストアローヤリティーの向上を目指しています。

# 当期の概況

## ●営業の状況

「スーパーマーケット事業部門」におきましては売上確保の観点より昨年6月から山の手店をはじめとして数店舗での夜間営業時間延長に着手し、同月より全店舗で自社提携のクレジットカードを発行し、これまで実施してまいりましたポイントカードに加えて更なるサービスの充実を図ることにより、買上点数の増加及び客単価アップを目指してまいりました。

また、下半期より特に頻度性の高い商品カテゴリーを選択し、「エブリデーラッキープライス」売場を展開し、当社の特徴である「豊富な品揃え」「付加価値商品の提供」といった路線を堅持しつつ、お客様へ安さをアピールする新たな売場づくりとして各店に波及させてまいりました。

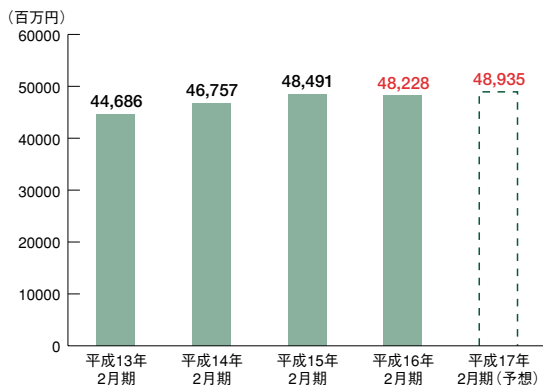
この結果、当連結会計年度は新規店舗といたしまして4月に長沼店、9月に発寒店を開設し、4月には美幌店の大幅な改装を実施、上記営業政策に取組むとともに、より一層の経費削減に努めてまいりましたが、売上高、売上総利益の大きな減少を吸収するには至らず、売上高は47,791百万円（前連結会計年度比99.8%）、営業利益は632百万円（前連結会計年度比53.9%）の実績にとどまりました。

「その他事業部門」におきましては、エル食品（株）TSU-TAYA FC店では販売効率の向上を図ったものの、競合状況が一段と激化したことにより売上高が前連結会計年度比86.1%と落ち込んだこと、また（株）アップルにおきましては取扱い保険商品の範囲縮小を実施し、人員の整理等を行った影響により、売上高は前連結会計年度比22.4%と大きく減少し、合計の売上高は437百万円（前連結会計年度比71.7%）、営業損失は46百万円（前連結会計年度は営業利益26百万円）の赤字となりました。

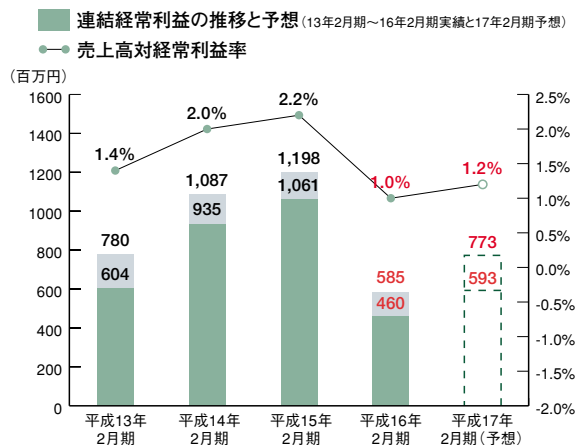
両事業部門を合わせまして、当連結会計年度の売上高は48,228百万円（前連結会計年度比99.5%）、営業利益は585百万円（前連結会計年度比48.9%）、経常利益は460百万円（前連結会計年度比43.4%）となりました。

また「スーパーマーケット事業部門」において、適格退職年金制度より確定拠出年金制度及び前払退職金制度へ移行することに伴い、適格退職年金部分の退職給付債務の未償却額を当連結会計年度末において一括処理したため、177百万円の特別損失を計上し、当期純利益は114百万円（前連結会計年度比21.2%）となり減収減益で終了いたしました。

■ 連結売上高の推移と予想（13年2月期～16年2月期実績と17年2月期予想）



■ 連結営業利益の推移と予想（13年2月期～16年2月期実績と17年2月期予想）



## ●次期の見通し

当社では次のような重点施策に取り組むことを計画しております。まず商品政策の面では、昨年より実施してまいりました「エブリデーラッキープライス」売場の拡大を図ること、「健康・安心」志向商品の拡大を図ること、ラッキーオリジナル商品を開発し訴求すること、CGCブランド商品の拡販に取り組むことなどを目指してまいります。

販売政策の面では、店長及びバイヤーによる緊密な情報交換により素早い意思決定のもと売り込みの徹底を図ること、チラシ掲載アイテムを再考し見易さを訴求すること、自社クレジットカード会員の増加を推進することなどに取り組んでまいります。

ローコスト政策の面では、プロセスセンターでの試験供給の開始、物流センター拡張に伴う機能強化などにより、今後に向けたローコストの仕組みづくりを手がけてまいります。

店舗政策といたしましては、新店の紋別店をはじめ2店舗の改装計画による増収体制を固め、試験的に開店時間の前倒し店舗導入を検討してまいります。

当社はこうした重点政策を着実に推進することにより、まず平成15年度の営業実績の回復を図るとともに、引続き

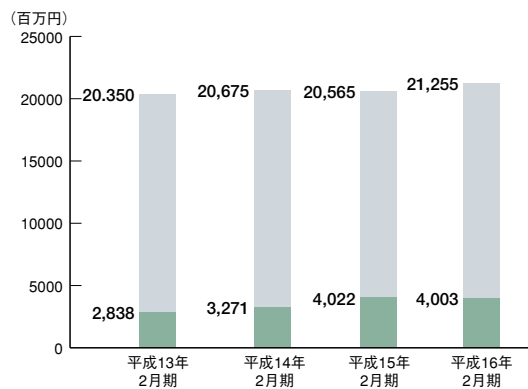
キャッシュ・フロー経営重視の観点より堅実な設備投資を遵守し、課題であります財務体質の改善に向けて取り組むこととし、今後の厳しい経営環境に対処してまいり所存であります。

設備投資につきましては、6月に網走管内の紋別市にシェイ紋別店を新規開店するほか、7月には空知管内の栗山町の栗山店を、10月には小樽市の朝里店をそれぞれ改装する予定であり、次期の連結見通しにつきましては、売上高は48,935百万円（前連結会計年度比101.5%）、経常利益は593百万円（前連結会計年度比128.6%）、当期純利益は265百万円（前連結会計年度比230.5%）を見込んでおります。

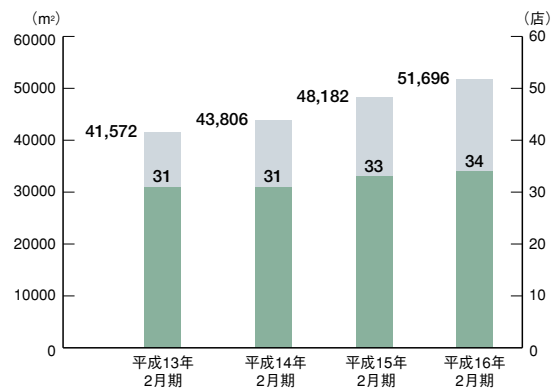
### (次期見通しに関する注意事項)

前述の業績の次期見通しは、現在入手可能な情報に基づく当社の判断によるもので、潜在的リスクや不確性を内包しております。従いまして、消費動向や経済環境の変化等により実績の業績はこれらの見通しとは異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おき下さい。

■ 連結総資産の推移 (13年2月期～16年2月期実績 4期分)  
■ 連結純資産の推移 (13年2月期～16年2月期実績 4期分)



■ 期中平均売場面積の推移  
■ 期末店舗数の推移





# 財務諸表（連結）

## ●連結貸借対照表

単位:千円

科目	当期	前期
	平成16年2月29日 現在	平成15年2月28日 現在
<b>〈資産の部〉</b>		
流動資産	6,334,295	5,855,668
現金及び預金	3,744,636	3,336,101
受取手形及び売掛金	187,349	107,189
たな卸資産	1,810,930	1,855,994
繰延税金資産	91,307	86,431
その他	500,394	470,281
貸倒引当金	△ 322	△ 330
固定資産	14,921,297	14,709,383
有形固定資産	10,453,065	10,587,010
建物及び構築物	3,579,734	3,755,488
車輜運搬具	3,236	4,153
土地	6,656,677	6,633,160
建設仮勘定	70,546	39,561
その他	142,871	154,647
無形固定資産	27,177	27,190
投資その他の資産	4,441,053	4,095,181
投資有価証券	275,326	193,271
繰延税金資産	384,310	319,038
差入保証金	3,494,320	3,080,250
その他	296,056	511,646
貸倒引当金	△8,960	△9,027
資産合計	21,255,592	20,565,052

Point

1

### 総資産

売掛金及び差入保証金が増加したこと及び買掛金が増加したこと等により、総資産は前連結会計年度に比べ、690百万円増加いたしました。

単位:千円

科目	当期	前期
	平成16年2月29日 現在	平成15年2月28日 現在
<b>〈負債の部〉</b>		
流動負債	10,910,246	9,776,836
支払手形及び買掛金	3,583,492	2,976,864
短期借入金	4,820,460	4,460,512
1年以内返済予定の長期借入金	1,315,391	1,017,527
未払法人税等	104,201	303,298
賞与引当金	169,199	172,385
その他	917,501	846,248
固定負債	6,342,250	6,765,331
社債	600,000	600,000
長期借入金	4,126,334	4,674,325
繰延税金負債	77	2,371
退職給付引当金	740,782	571,828
役員退職慰労引当金	368,139	370,092
その他	506,918	546,714
負債合計	17,252,496	16,542,167
<b>〈少数株主持分〉</b>		
	—	—
<b>〈資本の部〉</b>		
資本金	641,808	641,808
資本準備金	—	465,258
資本剰余金	465,258	—
連結剰余金	—	2,910,607
利益剰余金	2,881,574	—
その他有価証券評価差額金	14,454	5,211
資本合計	4,003,095	4,022,884
負債・少数株主持分及び資本合計	21,255,592	20,565,052

Point

2

### 有利子負債

当連結会計年度は、当期純利益の減少により有利子負債は109百万円増加し、売上高対有利子負債比率は前期に比べ0.3%増加の22.5%となりました。今後とも設備投資につきましては、キャッシュフローの範囲内を目安とし、借入金の圧縮に努めてまいります。

## ●連結損益計算書

単位:千円

科目	当期	前期
	平成15年3月1日～ 平成16年2月29日	平成14年3月1日～ 平成15年2月28日
売上高	48,228,422	48,491,031
売上原価	36,343,183	36,121,413
売上総利益	11,885,238	12,369,617
営業収入	928,284	922,939
営業総利益	12,813,523	13,292,557
販売費及び一般管理費	12,228,156	12,094,319
営業利益	585,366	1,198,237
営業外収益	108,823	120,451
営業外費用	233,246	257,238
・経常利益	460,943	1,061,449
特別利益	15,907	4,582
特別損失	194,609	35,778
税金等調整前当期純利益	282,241	1,030,254
法人税、住民税及び事業税	246,350	533,466
法人税等調整額	△ 79,054	△ 44,325
・当期純利益	114,945	541,112

Point

### 3 経常利益・当期純利益

売上高の減少に伴い、売上総利益高が前連結会計年度に比べ484百万円減少したため当連結会計年度の経常利益は前連結会計年度比56.6%減となりました。

また「スーパーマーケット事業部門」において、適格退職年金制度より確定拠出年金制度及び前払退職金制度へ移行することに伴い、適格退職年金部分の退職金給付債務の未償却額を当連結会計年度末において一括処理したため、177百万円の特別損失を計上し、当期純利益は前連結会計年度比78.8%減となりました。

## ●連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	当期	前期
	平成15年3月1日～ 平成16年2月29日	平成14年3月1日～ 平成15年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	983,422	573,986
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 971,730	△ 540,939
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,157	△ 426,701
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	8,534	△ 393,653
現金及び現金同等物の期首残高	3,156,101	3,549,755
現金及び現金同等物の期末残高	3,164,636	3,156,101

Point

### 4 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は983百万円(前連結会計年度比71.3%増)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益が282百万円、減価償却費が387百万円、退職給付引当金の増加額が168百万円及び仕入債務の増加が606百万円であったのに対し、売上債権の増加が80百万円、法人税等の支払額が445百万円であったこと等によるものであります。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は971百万円(前連結会計年度比79.6%増)となりました。これは主に定期預金の預入による支出が770百万円、有形固定資産の取得による支出が345百万円、建設協力立替金等の増加による支出が491百万円であったのに対し、定期預金の払戻による収入が370百万円、差入保証金の減少による収入が150百万円であったこと等によるものであります。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は3百万円(前連結会計年度比99.3%減)となりました。これは主に短期借入金が増加が359百万円、新規の長期借入金が増加が800百万円であったのに対し、長期借入金の返済による支出が1,050百万円、配当金の支払額が112百万円であったこと等によるものであります。

# 財務諸表（個別）

## ●個別貸借対照表

単位:千円

科目	当期	前期
	平成16年2月29日 現在	平成15年2月28日 現在
<b>〈資産の部〉</b>		
流動資産	6,132,887	5,601,680
現金及び預金	3,669,785	3,256,516
受取手形	165	211
売掛金	185,197	105,132
商品	1,674,052	1,660,427
貯蔵品	33,735	35,312
前払費用	138,018	140,785
繰延税金資産	86,392	82,023
未収入金	316,664	295,053
その他	29,198	26,540
貸倒引当金	△ 322	△ 323
固定資産	14,992,956	14,788,363
有形固定資産	10,440,535	10,575,031
建物	3,426,392	3,584,863
構築物	145,070	162,624
車輛運搬具	2,411	2,912
器具備品	139,437	151,908
土地	6,656,677	6,633,160
建設仮勘定	70,546	39,561
無形固定資産	25,012	24,484
ソフトウェア	7,207	6,678
電話加入権	17,805	17,805
投資その他の資産	4,527,408	4,188,848
投資有価証券	261,972	175,926
繰延税金資産	384,384	319,038
差入保証金	3,432,994	3,017,553
その他	457,193	685,544
貸倒引当金	△9,136	△9,214
資産合計	21,125,844	20,390,044

単位:千円

科目	当期	前期
	平成16年2月29日 現在	平成15年2月28日 現在
<b>〈負債の部〉</b>		
流動負債	10,874,880	9,702,882
支払手形	-	12,292
買掛金	3,566,936	2,939,800
短期借入金	4,820,460	4,460,512
1年以内返済予定の長期借入金	1,315,391	1,017,527
未払金	513,129	462,644
未払費用	190,613	159,825
未払法人税等	104,201	277,959
未払消費税等	82,251	111,959
前受金	25,651	26,042
預り金	88,512	66,719
賞与引当金	167,732	167,600
固定負債	6,336,970	6,752,103
社債	600,000	600,000
長期借入金	4,126,334	4,674,325
退職給付引当金	739,356	569,177
役員退職慰労引当金	366,296	363,436
長期預り保証金	503,934	508,730
その他	1,050	36,435
負債合計	17,211,851	16,454,986
<b>〈資本の部〉</b>		
資本金	641,808	641,808
資本準備金	-	465,258
資本剰余金	465,258	-
利益準備金	-	67,400
その他の剰余金	-	2,760,257
利益剰余金	2,794,286	-
その他有価証券評価差額金	12,639	334
資本合計	3,913,992	3,935,058
負債・資本合計	21,125,844	20,390,044

## ●個別損益計算書

単位:千円

科目	当期	前期
	平成15年3月 1日～ 平成16年2月29日	平成14年3月 1日～ 平成15年2月28日
売上高	47,790,094	47,880,022
売上原価	36,193,443	35,985,766
売上総利益	11,596,651	11,894,255
営業収入	944,830	936,199
営業総利益	12,541,482	12,830,455
販売費及び一般管理費	11,955,046	11,703,881
営業利益	586,435	1,126,573
営業外収益	102,289	111,011
営業外費用	233,235	256,783
経常利益	455,489	980,801
特別利益	15,911	4,578
特別損失	194,205	29,481
税引前当期純利益	277,195	955,898
法人税、住民税及び事業税	246,104	501,272
法人税等調整額	△ 78,515	△ 47,263
当期純利益	109,606	501,889
前期繰越利益	16,868	57,853
当期末処分利益	126,474	559,743

## ●利益処分

単位:千円

科目	当期	前期
	平成15年3月 1日～ 平成16年2月29日	平成14年3月 1日～ 平成15年2月28日
当期末処分利益	126,474	559,743
利益処分額	112,978	542,978
→ 配当金	112,978	112,978
役員賞与金	-	30,000
別途積立金	-	400,000
次期繰越利益	13,594	16,868

Point

1

### 利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆さま方に対する利益還元を経営の重要政策のひとつとして位置づけしており、企業体質並びに財務体質の強化を図るとともに、業績に応じまして安定的な配当を継続実施することを基本方針としております。

内部留保金につきましては、今後の新店舗建設や既存店舗の増改築などの投資に有効活用することとし、競争力の強化及び業績の向上に努めてまいります。

当期の株主配当金につきましては、当社をとりまく環境が依然として厳しい折から1株につき17円とさせていただきます。

## ラッキー発寒店が9月にオープン。 最新のミールストアは激戦地で順調に支持を集める。



- 左/「ミートスタジオ」。半調理品を品揃えし、お客様のご要望に応じてその場で調理、おかず屋さんとして、数々のヒット商品も生まれています。
- 中央/独特の売場空間を演出する青果導入部分。
- 上/発寒店の広々とした駐車場。
- 右/EDLP (エブリデーラッキープライス) によるベーシックアイテムの価格訴求に関してはこの発寒店から本格的展開が始まりました。

札幌中心部から車で20分ほどの郊外に2003年9月にオープンした発寒店。JR発寒駅から徒歩2~3分と交通の便も良く、周辺はマンションやアパートが建つ準住宅地に立地しています。

発寒店の総売場面積は1,000坪で、食品と衣料からなる直営売場は780坪、食品単体では550坪と当社のほぼ標準タイプの店舗といえます。

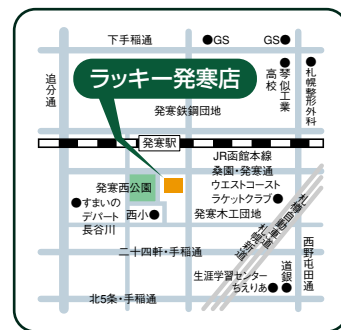
この地域は大変な激戦地。その中で最後発のこの発寒店へわざわざお客様に足を運んでいただくためには、はっきりとした個性なり主張なりが欠かせません。従来からの品揃えコンセプトである「フード&ミール」を一層深化させるため、新たに鮮魚や精肉に即食性の高いコーナーを併設いたしました。特に精肉のデリ商品コーナーは「ミートスタジオ」と名づけています。ここでは主にハーフデリ (半調理品) を品揃えし、お客様のご要望に応じて、その場で焼いたり揚げたりして、精肉部門のおかず屋さんとして、今までにたくさ

んのヒット商品を出すほどの評判を呼んでおります。今後とも新鮮素材の品揃えはもちろんのこと、即食性を強調した肉や魚の品揃え強化は欠かせない課題として取り組んでまいりたいと思います。

またEDLP (エブリデーラッキープライス) によるベーシックアイテムの価格訴求に関してはこの発寒店から本格的展開が始まりました。

発寒店の営業実績は大変順調に推移しております。

なお、本年6月には1,000坪タイプの新店を紋別市に出店する予定であります。



地域のお客さまにあてにされ、信頼される。  
そんなフレンドリーな売場づくりを目指しています。



#### 発寒店店長 齊藤 礼二

毎日の食卓がより豊かに、より美味しくなるように、基本食材や生鮮食品はいつも新鮮であるよう、心がけています。

そしてお弁当やおかずといった、調理なしでいつでも食卓に利用できるデリカ商品もバラエティ豊かに、一層充実させていきたいと思ひます。

開店から半年を経過し、おかげさまで毎日地域のたくさんのお客さまにご利用いただいております。今後ともお客さまの冷蔵庫代わり、まな板代わりとしてご利用いただけるよう、店長として努力を重ねていきたいと思ひております。

#### 食品売場チーフ 小松 司

毎日必要な物はより低価格で、そしてより美味しいものをご提供したい。ご家庭の奥様のタイムキーピングに貢献したい。大家族、小家族にジャストフィット

した分量をご提供したい……。さまざまなニーズにお応え出来るような売場を作りたい、どんどん進化させたいと思ひながら毎日売場に立っています。

健康家族の基本である「食生活」を支える売場として、一層の充実を図っていききたいと思ひます。

#### 精肉売場チーフ 蝶野 智紀

毎日の食卓になによりも安全で安心なお肉を提供することを第一の使命と思ひて取り組んでいます。

精肉売場では、静岡そだち和牛、りんご入りの飼料で育てたアップルビーフ、鹿児島産の黒豚、ラッキーの指定農場である長沼産SPF豚など、産地・ブランドのこだわりを大切にして真の美味しさをお届けしています。

さらに、お客さまにご満足いただける売場づくりを目指して工夫を重ねていききたいと思ひます。

# 会社概要

設立	1982(昭和57)年5月10日	役員	代表取締役社長 桐生 泰夫
本社	〒060-0011 札幌市中央区北11条西19丁目36-35	取締役副社長	田中 嘉久
資本金	6億4180万円	専務取締役	井本 逸夫(営業本部長)
代表者	代表取締役社長 桐生 泰夫	常務取締役	鴻野 英樹(総務部長)
従業員数	正社員 528名 パートタイマー 1,523名 (1人8時間換算 月平均)	常務取締役	早坂 征夫(開発部長)
営業品目	平成16年2月末日現在 生鮮食料品・加工食品・菓子・衣料品・ 日用雑貨・米・酒	取締役	大澤 範貢(販売部長)
		取締役	岩間 拓(経理部長)
		取締役	川端 敏(経営企画室長)
		取締役	山川 浩文(衣料部長)
		取締役	千葉 敬一(生産性推進室長)
		取締役	後藤 扶美彰(人事部長)
		常勤監査役	成田 明弘
		監査役	堀 勝彦
		監査役	河谷 泰昌
		監査役	中井 実

# 沿革

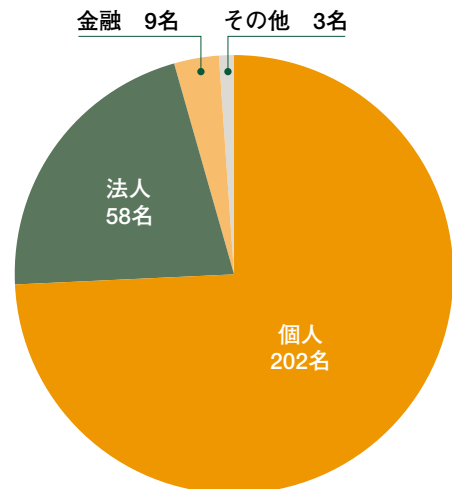
昭和46年04月	食品の小売及び卸売を目的として、札幌市手稲西野(現西区西野)に資本金6,000千円にて、株式会社オレンジチェーンを設立。	2年03月	POS(販売時点情報管理)システムを導入。
48年04月	本社を札幌市西区山の手1条7丁目に移転。	3年10月	石狩町(現石狩市)花川に花川南店を開店。
49年05月	商号を株式会社山の手ストアに変更し、本格的にスーパーマーケットのチェーン展開を開始。	4年02月	花川店に酒類販売の免許を取得し、酒類販売に着手。
	同月、山の手店をはじめ、5店舗の営業を開始。	5年09月	株式会社シティびほると合併し、シティびほろ店を開店。道東地区へ進出。
50年10月	札幌市東区に北49条店を開店。	6年03月	千歳市錦町に千歳錦町店を開店。千歳市へ進出。
51年10月	札幌市豊平区(現清田区)に清田店を開店。	6年04月	紋別郡遠軽町にシティえんがる店を開店。道東地区2店舗となる。
52年12月	札幌市北区に篠路店を開店。同時にEOS(補充発注システム)を導入。	6年11月	子会社、エール食品株式会社を設立し、食品加工卸売業を開始する。
53年10月	札幌市西区(現手稲区)に手稲店(現あけぼの店)を開店。	7年02月	保険部門を独立させ、子会社、株式会社アップルを設立。
54年04月	札幌市白石区に菊水元町店を開店。	7年05月	札幌市豊平区(現清田区)に美しが丘店を開店。
56年03月	札幌市豊平区に西岡店を開店。	8年03月	本格的にインスタアベーカーを手がけ、以後各店へ導入。
57年05月	株式会社まるせんと合併すると同時に、北雄ラッキー株式会社に商号変更。同時に、本社を札幌市中央区大通西23丁目291-1に移転。同月、子会社、株式会社札幌総菜センターを設立し、惣菜・米飯・漬物類の製造販売業を開始。	9年03月	山の手店を増床のうえ大幅改装し、新たなプロトタイプのお店づくりに着手。
57年06月	札幌市豊平区(現清田区)に北野店を開店。	10年03月	夕張郡栗山町に栗山店を開店。
58年07月	石狩町(現石狩市)花川に花川店を開店。	12年03月	網走市駒場にシティあばしり店を開店。道東地区3店舗となる。同月、食品の安全性検査のため独自の商品検査室を設置。
59年06月	本社を札幌市中央区宮の森3条1丁目1-25に移転。同月、保険部門を設け、損害保険の代理店業務へ進出。	13年03月	札幌市北区に新琴似四番通店を開店。
63年07月	小樽市新光町に朝里店を開店。小樽へ進出。	14年03月	中川郡舞別町に札内店を開店。同月、安全衛生管理室を設置。
平成元年07月	本社を札幌市中央区北11条西19丁目36-35に移転。同月、札幌市南区に川沿店を開店。	14年04月	札幌市手稲区に星置駅前店を開店。
		14年10月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
		15年04月	夕張郡長沼町に長沼店を開店。
		15年09月	札幌市西区に発寒店を開店。

# 株式の状況 (平成16年2月29日現在) JASDAQ: 2747

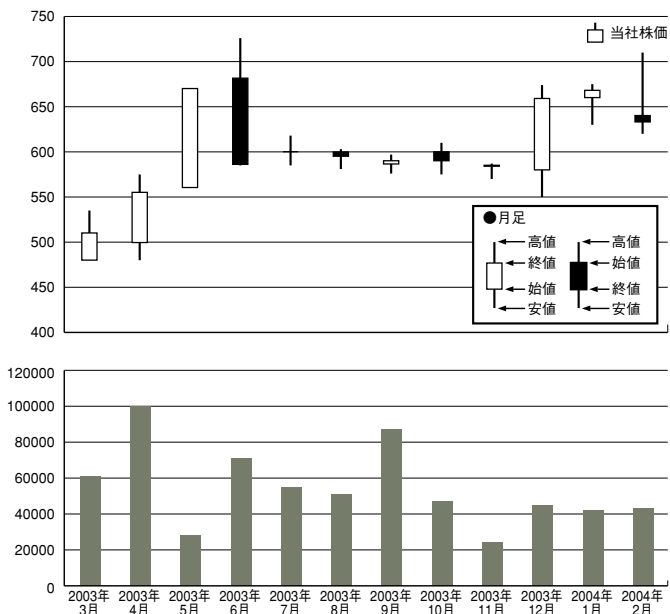
発行済株式の総数 **6,645,770株**

期末株主総数 **272名**

## ●所有者別株主数



## ●当社株価・売買高の推移 (2003.3~2004.2)



## ●大株主の状況

株主名	当社への出資状況		当社の当該大株主への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)	持株数(千株)	議決権比率(%)
桐生泰夫	1,251,000	18.83	—	—
田中嘉久	537,000	8.08	—	—
千葉敬一	451,000	6.79	—	—
株式会社北洋銀行	320,000	4.82	153.5	0.04
堀勝彦	240,000	3.61	—	—
北雄ラッキー社員持株会	226,000	3.40	—	—
有限会社まるせん商事	220,000	3.31	—	—
株式会社桐生商店	210,000	3.16	—	—
久保基彦	202,000	3.04	—	—
千葉幹治	200,900	3.01	—	—